



国立大学附属幼稚園からの提案 9

自ら体を動かして遊ぶ 経験や援助の在り方



平成26年3月

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

発刊にあたって

全国の国立大学附属幼稚園の教育実践研究を紹介する本リーフレットも第9号を重ねることになりました。

本号のテーマは「自ら体を動かして遊ぶ経験や援助の在り方」です。動物である我々にとって、動きは文字通り最も基本となる活動です。とりわけ活動を通して学ぶ幼児期の子どもたちの「自ら体を動かして遊ぶ」活動は、体力や運動能力の向上、身体知や有能感の獲得、さらには知的、社会的発達の基盤となるものです。本リーフレットでは5つの園にそれぞれの実践やその中での工夫を紹介いただきました。幼児教育の実践のヒントとして、全国でご活用いただければ幸いです。

なお、研究を紹介いただいた5つの園の皆様、また貴重なご助言をいただきました杉原 隆先生には、心より御礼を申し上げます。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

会 長 中 澤 潤

目 次

発刊にあたって2

国立大学附属幼稚園の取り組み

「自ら体を動かして遊ぶ経験や援助の在り方」について3

掲載事例

| | | |
|----------------------|---------------|--------|
| しなやかな心と体をはぐくむ | 岩手大学教育学部附属幼稚園 |4 |
| 子どもが自ら動きたくなる園環境 | 千葉大学教育学部附属幼稚園 |5 |
| 生き生きと身体を動かす活動や環境を考える | 三重大学教育学部附属幼稚園 |6 |
| 幼児が自ら体を動かして遊ぶ環境とその援助 | 群馬大学教育学部附属幼稚園 |7 |
| 幼児期に必要な「からだ力」について考える | 奈良教育大学附属幼稚園 |8 |

コラム

～自ら体を動かして遊ぶ経験とその援助の重要性～

一般財団法人田中教育研究所長・東京学芸大学名誉教授 杉原 隆9

全国国立大学附属幼稚園 平成26年度研究テーマ一覧10~11



「自ら体を動かして遊ぶ経験や援助の在り方」について

幼児が体を動かして遊ぶことは、身体的な側面だけでなく、様々な活動への意欲や、社会性、創造性など、幼児の心の発達を培う上でとても重要です。

しかし近年、幼児を取り巻く社会環境や生活様式の変化から幼児が体を動かして遊ぶ機会が減少し、多様な動きの獲得や対人関係などコミュニケーションをうまく構築できないなどの課題が見られます。

これらの課題を踏まえ、国立大学附属幼稚園では「自ら体を動かして遊ぶ経験や援助の在り方」について、特色ある教育活動や研究活動の取り組みや成果を広く発信します。

掲載事例の概要

しなやかな心と体をはぐくむ

- 幼児の体の発達や遊びの志向、自然の変化等を捉えた計画的な環境の構成・援助の工夫
- 多様な動きの経験を通して基本動作の獲得や、表現力・思考力・コミュニケーション能力等の総合的な発達
- 「やった」「できた」という達成感や有能感によって促される自己の育ち

子どもが自ら動きたくなる園環境

- 幼児が「遊びの主人公」になって、動くことの重要性
- 幼児の「遊びたい」気持ちに、動く楽しさ、友だちとかがわる楽しさが伴う保育実践
- 自らチャレンジできる、イメージがもてる、継続して遊び込める、自分たちで動かせる遊具という視点からの園庭環境の見直し

生き生きと身体を動かす活動や環境を考える

- 幼児の興味や関心に沿い、個々の発達や教師の願いを重ね合わせていく活動の実践
- 体を動かす活動の要素として、憧れの対象、遊びへの期待感、気持ちを共有する友達
- 幼児が獲得しようとしている動きを捉えた活動内容の精選

幼児が自ら体を動かして遊ぶ環境とその援助

- 体を動かして遊ぶことを通して「運動」「認知」「社会性・道徳性」の発達を支える環境構成と援助のポイント
 - ・発達の最近接領域を意識した環境構成
 - ・遊びの中での課題や問題、思考した事柄の言語化と幼児へのフィードバック
 - ・幼児の関わり合いを促す環境構成

幼児期に必要な「からだ力」について考える

- からだ・うごき・きもちの3要素が影響し合って高まる「からだ力」。それを育むために、体づくり・動きづくり・気持ちづくりの3方向からアプローチした保育実践
- 「からだ力」を育むために導き出した「学年別ポイント」による保育の指標の明確化
- 「からだ力」を育むための「学年別指導計画」の作成

心と体の関係は切っても切り離せないものである。幼児は心の安定や遊びによる自己充実感を味わう中で、次第に自分らしさを発揮し、様々な体の動きを身につけていく。幼児が夢中になって遊んでいるときは、心も体も弾み、自分がやりたいと思うことに向かって、生き生きと体を動かしている。

このような経験の積み重ねを通して、しなやかな心と体をはぐくんでいきたいと考え、本園では自然に恵まれた園庭を生かした遊びの環境や援助の工夫に取り組んでいる。

環境の構成や援助のポイント

◆発達過程と環境のもつ意味をとらえる

園庭の樹木固定遊具などへのかかわりも、入園当初は探索的なかかわりが多いが、次第に自分のものになってくると、それらを何かに見立てたり、つもりになって動く場になったり、仲間との遊びの拠点になったり、自分なりの課題に挑戦する場となったりする。幼児の発達の過程に沿って変化していく環境のもつ意味をとらえる。

◆一人一人の育ちに合わせた環境や活動の工夫

幼児とのかかわりから、幼児の内面を読み取り、一人一人の興味関心や育ちに合わせ、内的動機を高めるような状況をつくっていく。

◆身体的な発達や自然の変化に合わせた意図的・計画的な環境の構成

園庭環境は動かせないものであるが、幼児の身体の発達や遊びの志向性に合わせて、新たな環境を加えたり、季節の自然を生かしながら、環境を変化させたりしていく。

3歳児

自分の身体や五感を通して、人・もの・こととかわり自分の世界を広げていく時期。自ら身体を動かし、探索したり、試したり、確かめたりして、自分の世界が広がる喜びが味わえるようにする。



引っ張ったり、くぐったり、身をゆだねたりして、敵に見立てたゴムと戦う3歳児

4歳児

遊びの楽しさが広がり、友達と見立てやつもりの世界を楽しむ時期。つもりになって動くごっこ遊びは、全身で表現する魅力と結びつき、多様な動きが引き出される。イメージの中で体を動かす楽しさが味わえるようにする。



お神輿かついで、起伏のある園庭を練り歩き、お祭りごっこを楽しむ4歳児

5歳児

身体機能が発達し、運動能力が高まってくる時期。自己課題に向かってあきらめずに取り組もうとしたり、友達と共通のイメージやルールを見だし、協同して取り組んだりする面白さが味わえるようにする。



森のステージで、音楽のイメージに合わせた動きの表現を創り出す5歳児

体を動かす遊びを通して得られる学び

○多様な動きの経験を通して基本動作の習得

いろいろな遊びを経験する中で、様々な動きが獲得され、動きが洗練されていく。

○有能感によって促される自己の育ち

様々な体の動きを通して得られた「やった」「できた」という喜びや達成感、自分への自信や有能感をはぐくみ、自己形成を支えていく。

○諸能力の総合的な発達

体を動かす遊びでは、位置・空間・数などを感覚的にとらえるなど知的活動に伴う上、友達とかかわる中で、表現力・思考力・コミュニケーション能力など、諸能力が関連し合い総合的に発達していく。

本園の保育は、登園後戸外でも室内でも好きなところで遊ぶこと、できるだけ子ども本人がやりたい遊びを選ぶこと、十分に取り組める時間を保障している。このような保育の形態の中でどのように「体を動かすこと」を位置付けていくのかを、あらためて見直し、子どもの「遊びたい」という気持ちに、体を動かす喜びや楽しさが伴う保育をどのように展開できるのか研究した。

動きを伴う遊びのプロセス

子どもの心が動くこと → 子どもが主体になって動くこと → 遊びの主人公になる

園庭の見直しの視点

子どものイメージが「動く」につながる



今まで使っていなかった場を見直す

園の真ん中の見晴らしのいい所にステージを設置する。いろいろなクラスの子がかかわりながら踊ったり歌ったり楽器を演奏したりする。

「先生見て!」が「動く」につながる



周りに人がいる環境が動くには大切

保育者が認めたり励ましたりできる保育室の近くに、チャレンジできる遊具を集める。友達の刺激を受け、集い、チャレンジするようになる。

動く楽しさ 友達とかかわる楽しさ

継続できる場所が「動く」につながる



戸外のごっこ遊びは、運んで作って動く要素満載!

没頭して取り組める環境を作る。遊びが継続するようになり、園庭での体を動かしたダイナミックな遊びが展開する。

自分たちで動かせる遊具が「動く」につながる



木製のすのこは扱いやすく大活躍!

自分たちで動かし、遊びの場を作れる遊具(すのこ、ビールケースなど)を豊富に用意する。友達とかかわりながら自然に体を動かす。

まとめ 幼稚園での「動く」は有能感を高めるものにしていきたい。そのためには、一人一人が遊びの主人公になることが大切だろう。身近な環境を、保育者が遊びに向き合い子どもの視点に立って整えていくことが、自ら動きたい、動くことが楽しいと思える子どもを育てることにつながっていくのではないだろうか。

— 幼稚園の「動く」は友達と一緒に心ゆくまで楽しむことを目指していきたい —

生き生きと身体を動かす活動や環境を考える

三重大学教育学部附属幼稚園

幼児が目を輝かせ、身近な環境に主体的にかかわり遊ぶために、教師はひとりひとりの興味や関心を捉え、それらに沿いながら必要な援助や環境を考えるとともに、発達に応じた遊びやその時々を経験してほしい活動等、教師の願いを重ね合わせながら活動や援助を考えることが大切だと思う。

「忍者」に興味を持った子どもたちが修行に取り組んでいく活動を通して、自ら身体を動かし夢中になって遊ぶ姿を支える教師の援助について考える。

子どもの興味や関心



- ・少し難しいことにも挑戦したい
- ・遊具を使いこなして遊ぶことが楽しい
- ・新たな遊びを見つけることが面白い
- ・友達と一緒に試したり工夫したりすることが楽しい

教師の思いや願い

「鉄棒などで頭が下になることを怖がる
でんぐり返しの経験が少ない」などの子どもの姿から

- ・「してみたい」という思いが実現できるようにする
- ・多様な動きが経験できるような活動の工夫をする

忍者になって遊ぶことを通していろいろな動きを楽しもう！

忍者から手紙が届いた！



「何てかいてあるの？」
わくわくした気持ちは遊びへの期待感につながっていく

忍者と一緒に修行をしよう！



「岩越え」「丸太転がし」などいくつかの修行の中で、イメージを持ちながら様々な動きを経験する



あの忍者のようになりたい

忍者の師匠が見せてくれた側転に刺激を受け、繰り返しやってみようとする
→あこがれが意欲を引き出す



もっといろいろな修行をしてみたい



- ・動きを工夫したり、目標を持って取り組んだりする
- ・協力したり、刺激を受け合ったりする



活動の要素として大切にしたいこと

- ・動きのイメージをもてる
- ・身近なあこがれとしての対象がある
- ・挑戦しがいがある
- ・友達と気持ちを共有することができる
- ・自ら活動や環境に動きかけられる

これらを通して見られた子どもの育ち

- 自分なりの目的や目標、必要感や必然性をもつ
- 継続して取り組む
- 見通しをもち繰り返しやってみようとする
- 達成感を得る
- 主体的に、意欲的に取り組む

教師の援助

状況づくり

- * 具体的なイメージをもてる
- * あこがれの存在をつくる
- * 物語がある

環境づくり

- * 日常的に取り組める
- * 自ら働きかけ、工夫できる

内容の精選

- * 繰り返しできる、継続して取り組める
- * 子どもが発達の上で獲得しようとしているものを捉える

三重大学教育学部附属幼稚園

電話：059-227-1711 FAX：059-227-6723

〒514-0062 三重県津市観音寺町523

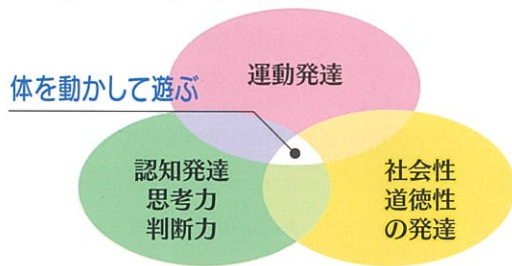
Eメール：sh-youchien@fuzoku.edu.mie-u.ac.jp

幼児が自ら体を動かして遊ぶ環境とその援助

群馬大学教育学部附属幼稚園

幼児は、自発的な遊びの中で体を動かすことによって、多様な動きを獲得していく。これは、運動発達の観点から見るとたいへん重要である。しかし、体を動かして遊ぶことは、運動発達のみならず、思考力や判断力といった認知発達、友達を思いやったり、ルールを守ったりといった社会性・道徳性の発達という観点からもたいへん重要である。

本園では、幼児が体を動かして遊ぶことにより成長が期待される「運動発達」「認知発達」「社会性・道徳性の発達」について研究を積み重ねてきた。ここでは、それぞれの観点を切り口に、環境構成と援助の在り方について考えていくことにする。



【事例②】「走らなければいいんだ」

小学校のリレー大会を見学して以来、年長児の間ではリレー遊びが流行っている。動くことが大好きなD児は、肩を怪我して医師から走ることを止められていた。しかし、D児はリレーに入りたくて仕方がない。リレーが始まりそうになると、「僕もやりたい」とリレーの仲間に入っていた。教師は、D児の怪我のことや医師から止められていることをリレーをしようとしている幼児に説明した。そして教師は、「D児くんは走れないけど、リレーに入りたかった。」とD児の気持ちを受容した。それを聞いていた幼児たちは「そうだ、走らなければいいんだ。歩きリレーをしようよ。」と提案した。

その後、何度も何度も歩きリレーをする幼児たちの中に、仲間と共に懸命に歩くD児の喜々とした姿があった。

【事例①】「跳べっ！」

5歳児がベランダから、園庭の木製ステージや固定遊具に向けて、道のように木の板を並べていた。並べ終わると、そこは上履きそのまま園庭の各所に出かけられる夢の道になったのである。地面には決して落ちてはならない。子どもたちは、自分たちで考えた厳しい条件の下、それを楽しみの一つとして、さらに遠くまで道を延ばしていく。板が足りなくなると、タイヤ・ござ・ジョイントマットを次々に持ってきては、力を合わせ、声を掛け合い延長していく。

この遊びに興味をもってベランダから見ていた4歳児のA児。しばらくすると、ベランダから延びる板の道を一步一步、歩き始めた。A児がまた出て行くと、B児がベランダに架かっている板の道の一部を他の遊びに使うために持って行ってしまった。帰ってきたA児は困り顔。上履きだから、土の上は歩けない。途切れた道で立ち尽くす。

教師は、「跳べっ！」と応援した。A児は顔を横に振り、「跳べない」と言う。教師は言葉を続けた。「大丈夫だよ。ピョンって。できるよ」A児は「うん」と頷き、そして跳んだ。何とかベランダにのることができた。満面の笑みを浮かべた。その後、何度も何度も、途切れた道の間を跳んでいた。そこにC児が加わり、一緒に繰り返した。最後は裸足になって、思い切り体を使って遊ぶ姿がみられた。



~~~~~ 運動    ~~~~~ 認知    ~~~~~ 社会性・道徳性

## 環境構成と援助のポイント

### ○運動発達を促すには

移動可能な遊具を活用し、発達の最近接領域を意識した環境構成や再構成を行えるようにしていくことが有効であろう。また、運動に対する有能感をもたせるような言葉掛けも重要になってくる。

### ○認知発達を促すには

遊びの中で生じた課題や問題に対して、経験を基に見通しや予測を立て、試行錯誤を繰り返すことができるように、一緒に考えたり見守ったりする必要がある。その際、教師は幼児が行った行為の理由を聞くなどして思考した事柄を言語化しフィードバックすることも有効であろう。

### ○社会性・道徳性の発達を促すために

幼児が関わりあうことで、主体性や相互性が育まれ、社会性・道徳性の発達が促される。そこで、環境構成においては、複数の幼児がかかわらないと遊びが成立しないような遊具を用意したり、状況をつくったりすることが有効であろう。

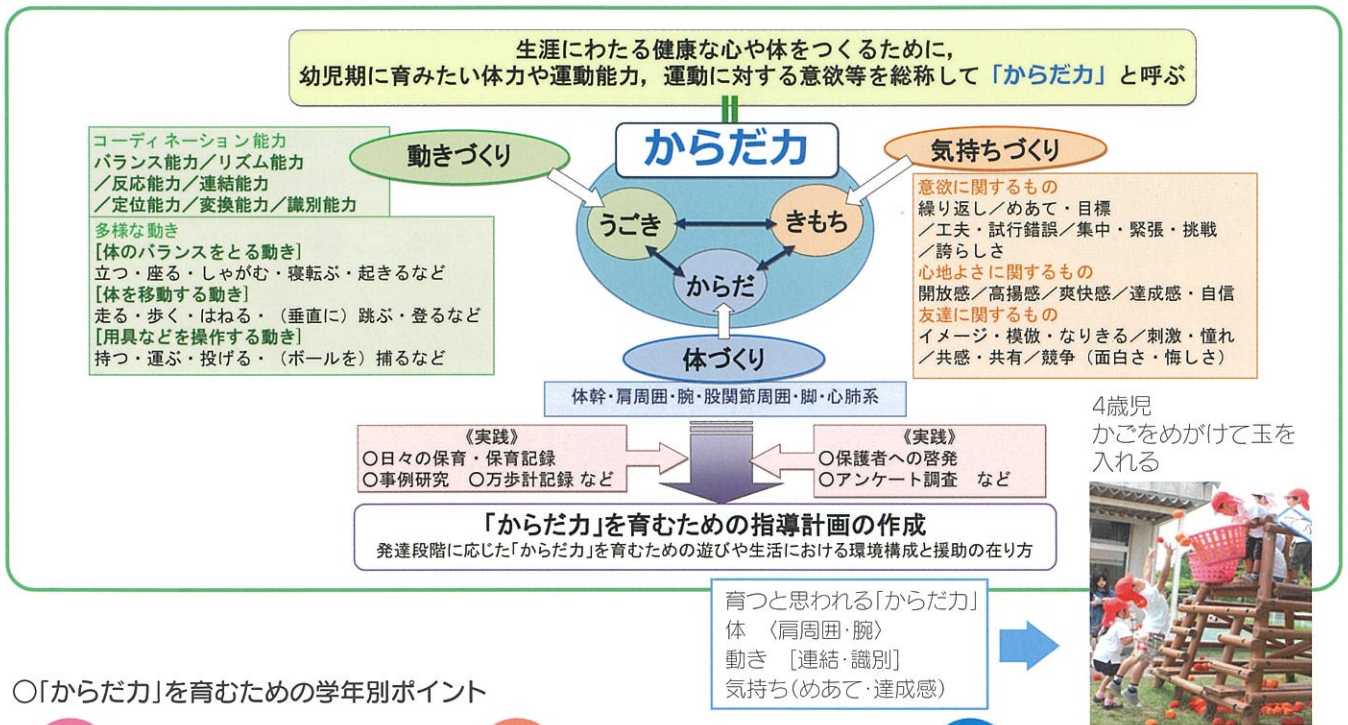


# 幼児期に必要な「からだ力」について考える

奈良教育大学附属幼稚園

生涯にわたる健康な心や体のために、幼児期に必要な体力や運動能力、運動に対する意欲など幼児期に育てるべきからだの総合的な力を総称して「からだ力」と呼ぶこととした。その「からだ力」は「からだ」「うごき」「きもち」の3要素が相互に影響し合って高まっていくと考える。従って、「からだ力」を高めるために「体づくり」「動きづくり」「気持ちづくり」の3つの方向からアプローチし、日々の実践をもとに「からだ力」を高めるための学年別のポイントと指導計画を導き出した。

## ○研究の概要図



## ○「からだ力」を育むための学年別ポイント

| 3歳                                                                                                                                                              | 4歳                                                                                                                                                                                            | 5歳                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>体づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全身を動かす</li> <li>様々な部位を動かす</li> <li>基本的な運動量を増やす</li> </ul>                                             | <p><b>体づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全身を動かす</li> <li>様々な部位を動かす範囲を広げる</li> <li>より多様な運動を増やす</li> </ul>                                                                     | <p><b>体づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全身を全力で動かす</li> <li>様々な部位をなめらかに動かす</li> <li>運動の量と質を向上させる</li> </ul>                                                                                        |
| <p><b>動きづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全身を使った遊びでの多様な動き</li> <li>「体のバランスをとる動き」</li> <li>「体を移動する動き」</li> </ul>                                | <p><b>動きづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体全体でリズムをとる</li> <li>用具の巧みな操作,コントロール</li> <li>動きのレパートリーが増える</li> <li>バランス感覚</li> <li>異なる二つの動きを協応</li> </ul>                         | <p><b>動きづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の基本的な動きの組み合わせ</li> <li>よりなめらかで巧みな動き</li> <li>リズムやスピードのコントロール</li> </ul>                                                                                |
| <p><b>気持ちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んでの繰り返し</li> <li>体を動かす心地よさ,楽しさ</li> <li>開放感</li> <li>高揚感</li> <li>爽快感</li> <li>真似る面白さ</li> </ul> | <p><b>気持ちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりのめあて・遊びの工夫</li> <li>動きをつくり出す面白さ</li> <li>面白さの追求・挑戦</li> <li>好奇心・スリル・高揚感</li> <li>爽快感・達成感・イメージ</li> <li>なりきり・友達と一緒に</li> </ul> | <p><b>気持ちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標・遊びやルールへの工夫</li> <li>集中・挑戦・誇り</li> <li>高揚感・爽快感</li> <li>達成感・自信</li> <li>全力でやる心地よさ</li> <li>教えあい・話し合い</li> <li>みんなで目的に向かって</li> <li>競争(面白さ)</li> </ul> |



## 自ら体を動かして遊ぶ経験とその援助の重要性

一般財団法人田中教育研究所長  
東京学芸大学名誉教授

杉原 隆 先生

私たちが行ってきた幼児の運動能力全国調査の分析から、体操、跳び箱・鉄棒、サッカー、縄跳びなどの運動を教えている園より、教えていない園の方が運動能力が高いことが示された。さらに、行う運動や運動の仕方などを、指導者ではなく子ども自らが決めるといふ遊び要素の多いかたちで運動をしている園ほど、運動能力が顕著に高いことも明らかにされた。

これらの客観的なデータは、ある特定の運動の上達を目指して指導者が一方的に指導するというやり方が、幼児期の発達の特徴に適していないことを明確に示している。幼児期にふさわしい効果的な援助で最も大切なこととは、“面白そう、やってみたい!”, “あんなことをやりたい”, “どうすればうまくできるかな?”, “こうすればどうなるかな?”など、子ども自らがその運動をやりたいという意欲を引き出し、遊びとして運動とかわるようになることである。

そのためには、まず、園の施設用具を多様化したり、子どもたち自身が工夫して使えるものを用意したりするなど、子どもの運動好奇心をくすぐる物理的環境を豊かにすることが大切である。とともに、できるできないや上手下手ではなく、一生懸命取り組んだことやその子なりの進歩上達を大切にするという雰囲気の中で、子どもの有能感を育むことが重要になる。このような、子どもの自己決定を尊重した運動遊び経験が、体力・運動能力だけでなく、運動意欲や自我や社会性や知的発達など、心の成長に大きく貢献することが分かってきた。

しかし、運動経験が教育的効果を十分に発揮するためには、自発的な遊びであればなんでもよいというわけではない。幼児期にこそ経験しておくべき運動と、それらを通して幼児期のうちに発達させておきたい運動能力がある。経験の一つは、走る、跳ぶ、蹴る、打つなどといった50以上もあるとされる人間の持つ多様な運動パターンである。もうひとつは、例えば同じ走るといふパターンでも、いろいろな方向に、いろいろな速さで、いろいろな場所で走るといふようなバリエーションである。多様な運動パターンとそのバリエーションを遊びのなかで十分経験することによって、一生のうちで幼児期に最も習得しやすい運動コントロール能力を効果的に向上させることが可能になる。幼児期に高められた運動コントロール能力と有能感はその後の運動発達の基盤となり、大きくなってどのような運動をすることになっても、容易に学習できるようになるのである。

### 今後に向けて

- 子ども・子育て支援に関する制度改革を受けて、学校教育としての幼児園教育の質の向上に努めます。
- 豊かな研究組織をもつ大学と連携し、専門性を生かした調査研究や共同研究に取り組み、広く社会に発信していきます。



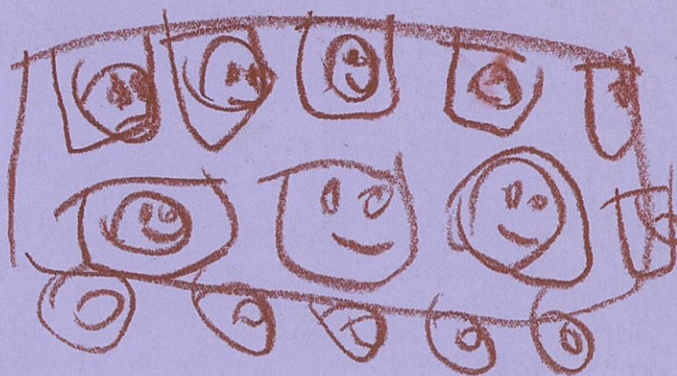
# 平成26年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧

|    | 幼稚園名                      | 研究テーマ                                            | 公開研究会等の期日                      |
|----|---------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------|
| 1  | 北海道教育大学<br>附属旭川幼稚園        | 子どもの内面に向き合う                                      | 26.10. 3(金)                    |
| 2  | 北海道教育大学<br>附属函館幼稚園        | 小学校との繋がりを意識した幼児教育を目指して(仮)                        | 26.10.18(土)                    |
| 3  | 弘前大学教育学部<br>附属幼稚園         | 協同的な学びを考える<br>—遊びが生まれる環境の工夫—                     | 未定                             |
| 4  | 岩手大学教育学部<br>附属幼稚園         | 子どもの体験のつながりを大切にした保育                              | 26.10.18(土)                    |
| 5  | 宮城教育大学<br>附属幼稚園           | かかわる力を育てる<br>—遊びの充実を図るための環境構成について—(3年次)          | 26.10.16(木)                    |
| 6  | 秋田大学教育文化学部<br>附属幼稚園       | 遊びの充実を目指して<br>—共につくる遊びの環境—                       | 26. 6.27(金)                    |
| 7  | 山形大学<br>附属幼稚園             | 心つながる子ども<br>—遊びの質とつながり—                          | 26. 6.13(金)                    |
| 8  | 福島大学<br>附属幼稚園             | 「保育を見つめ直す」<br>—新しいカリキュラムをめざして—(3年次)              | 26.5.23(金),5.24(土),<br>7.31(木) |
| 9  | 茨城大学教育学部<br>附属幼稚園         | 子どもと共に遊びをつくる                                     | 27. 2.10(火)                    |
| 10 | 宇都宮大学教育学部<br>附属幼稚園        | 豊かな暮らしを創造する幼稚園の環境<br>—言葉に目を向けて—                  | 26.11.15(土)                    |
| 11 | 群馬大学教育学部<br>附属幼稚園         | 友だちとかかわる力をはぐくむ保育                                 | 26.6.5(木),10.25(土)             |
| 12 | 埼玉大学教育学部<br>附属幼稚園         | 質の高い保育とは何かを問い直す(2年次)                             | 26. 6.18(水)                    |
| 13 | 千葉大学教育学部<br>附属幼稚園         | 子どもたちの“物語”を豊かにする環境                               | 26.10.25(土)                    |
| 14 | 東京学芸大学<br>附属幼稚園小金井園舎      | 今日から明日へつながる保育<br>—自己課題と向き合う記録の活用—                | 26. 6.21(土)                    |
|    | 東京学芸大学<br>附属幼稚園竹早園舎       | <竹早地区附属学校園連携研究>幼・小・中連携カリキュラムの検証<br>—主体性は育まれているか— | 26.11.15(土)                    |
| 15 | お茶の水女子大学<br>附属幼稚園         | 探求力・活用力が発揮される生活(3年次)                             | 26.6.27(金),27.2.6(金)           |
| 16 | 山梨大学教育人間科学部<br>附属幼稚園      | 子どもが主体となる保育                                      | 26. 6.21(土)                    |
| 17 | 新潟大学教育学部<br>附属幼稚園         | 社会的知性を培う<br>—幼小中一貫教育カリキュラムの開発—                   | 26. 5.28(水)                    |
| 18 | 富山大学人間発達科学部<br>附属幼稚園      | 子どもの体験を支える                                       | 26. 6.17(火)                    |
| 19 | 金沢大学人間社会学域<br>学校教育学類附属幼稚園 | 幼稚園における遊びを探る<br>—遊び込む中の学び—                       | 26. 6.12(木)                    |
| 20 | 福井大学教育地域科学部<br>附属幼稚園      | 「学びの芽生えを育む」<br>—自分から遊びたくなる環境づくり—                 | 26. 6.21(土)                    |
| 21 | 信州大学教育学部<br>附属幼稚園         | 遊びにうちこむ子ども<br>—子どもの心をみたくしていく一つ一つの思いをみつめて—        | 26.10.25(土)                    |
| 22 | 上越教育大学<br>附属幼稚園           | 遊び込む子ども<br>—学びの基盤に着目して—                          | 26.10. 8(水)                    |
| 23 | 静岡大学教育学部<br>附属幼稚園         | 子どもが遊びこむ姿を捉える<br>—振り返りから見える子どもの育ちと実践—            | 26.11.12(水)                    |
| 24 | 愛知教育大学<br>附属幼稚園           | 「学びと育ちの連続性」を見通した幼児期の教育を考える(2年次)<br>—学びの連続性を探る—   | 26.11.13(木)                    |
| 25 | 三重大学教育学部<br>附属幼稚園         | 夢中になって遊ぶ姿を支える教師の援助                               | 27. 1.24(土)                    |



|    | 幼稚園名                  | 研究テーマ                                                                                                      | 公開研究会等の期日                     |
|----|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|
| 26 | 滋賀大学教育学部<br>附属幼稚園     | 「わくわくの創造」<br>—自らのりだし、人とゆきかう子どもを育てる—                                                                        | 26.11.14(金)                   |
| 27 | 京都教育大学<br>附属幼稚園       | 生き物と共に育つ保育のあり方                                                                                             | 26.11. 1(土)                   |
| 28 | 大阪教育大学<br>附属幼稚園       | 「きく力」を育てる<br>—人の思いを感じられる子どもをめざして—(2年次)                                                                     | 26.11. 8(土)                   |
| 29 | 兵庫教育大学<br>附属幼稚園       | 子どもの育ちにとって意味ある環境とは<br>—協同性を育て道徳性、規範意識の芽生えを培う指導の在り方—                                                        | 26.5.28(水),8.1(金),<br>12.6(土) |
| 30 | 神戸大学<br>附属幼稚園         | 幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の開発<br><公開研究会テーマ>子どもにとっての遊びの意味を問い直す | 26.8.1(金),11.22(土)            |
| 31 | 奈良教育大学<br>附属幼稚園       | 「幼児期に必要な『からだ力』を育む」                                                                                         | 26. 6.14(土)                   |
| 32 | 奈良女子大学<br>附属幼稚園       | 幼児期から青年期へかけての断続的研究<br>—異年齢の友達とのかかわりを通して学ぶこと育つこと—                                                           | 未定                            |
| 33 | 鳥取大学<br>附属幼稚園         | 学びをつなぐカリキュラムの創造Ⅱ                                                                                           | 27. 1.30(金)                   |
| 34 | 島根大学教育学部<br>附属幼稚園     | <幼小中一貫教育研究テーマ>学び続ける子どもの育成                                                                                  | 26. 6.27(金)                   |
| 35 | 岡山大学教育学部<br>附属幼稚園     | 考える力を育てることばの教育<br>—3つの「ことばの学び」に支えられた一貫教育カリキュラムの構築を目指して—(仮)                                                 | 26.11.14(金)                   |
| 36 | 広島大学<br>附属幼稚園         | 森で育つ<br>—森の幼稚園の保育プラン— (5年次)                                                                                | 26.11. 7(金)                   |
| 37 | 広島大学<br>附属三原幼稚園       | 社会的自立の基礎となる能力・態度及び価値観の体系的な育成のための、幼小中一貫の新領域による自己開発教育の研究開発 (3年次)                                             | 26.11.14(金),11.15(土)          |
| 38 | 山口大学教育学部<br>附属幼稚園     | 主体的なかかわりを育む<br>—魅力的な場づくりを通して—                                                                              | 26.11. 6(木)                   |
| 39 | 鳴門教育大学<br>附属幼稚園       | 豊かな遊誘財を創り出すために<br>—生活プランの見直しと実践の省察から—                                                                      | 26. 8. 1(金)                   |
| 40 | 香川大学教育学部<br>附属幼稚園坂出園舎 | 幼児教育の質を高める<br>—計画と実践の在り方を考えるⅢ—                                                                             | 27. 1.30(金)                   |
|    | 香川大学教育学部<br>附属幼稚園高松園舎 | 能動性を発揮する保育環境の再考<br>—遊びの中で心を動かさせ表現する子どもⅡ—                                                                   | 27. 6. 6(金)                   |
| 41 | 愛媛大学教育学部<br>附属幼稚園     | 子どもの豊かな学びを支える<br>—発達に即した援助の在り方—                                                                            | 27. 2. 6(金)                   |
| 42 | 高知大学教育学部<br>附属幼稚園     | 未定                                                                                                         | 未定                            |
| 43 | 福岡教育大学<br>附属幼稚園       | 言葉で人とつながり合う幼児を育てる                                                                                          | 26.11.15(土)                   |
| 44 | 佐賀大学文化教育学部<br>附属幼稚園   | 自律性が育まれる保育                                                                                                 | 27. 2.22(日)                   |
| 45 | 長崎大学教育学部<br>附属幼稚園     | 小学校以降の学びを見通した幼児の学びの探求                                                                                      | 27. 1.24(土)                   |
| 46 | 熊本大学教育学部<br>附属幼稚園     | 「感じる 考える 伝え合う子ども」<br>—思考力・表現力の芽生えを培う—                                                                      | 26.11. 8(土)                   |
| 47 | 大分大学教育福祉科学部<br>附属幼稚園  | 子どもの育ちを支える保育環境<br>—園の自然環境から生まれる子どもの遊びを見つめて—                                                                | 26.11. 8(土)                   |
| 48 | 宮崎大学教育文化学部<br>附属幼稚園   | 「かかわる力を育てる援助の在り方」<br>—一人一人の子どもを見つめて— (2年次)                                                                 | 27. 2. 6(金)                   |
| 49 | 鹿児島大学教育学部<br>附属幼稚園    | 協同性を育む保育の在り方Ⅱ<br>—遊びにおける協同性の育ち—                                                                            | 26.11.21(金)                   |





—発行—

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

—事務局—

千葉大学教育学部附属幼稚園

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL 043-251-9001 FAX 043-251-9001

Eメール irisawa@faculty.chiba-u.jp